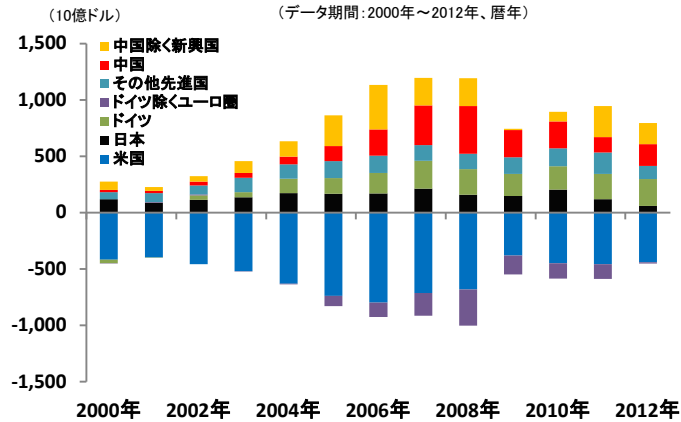
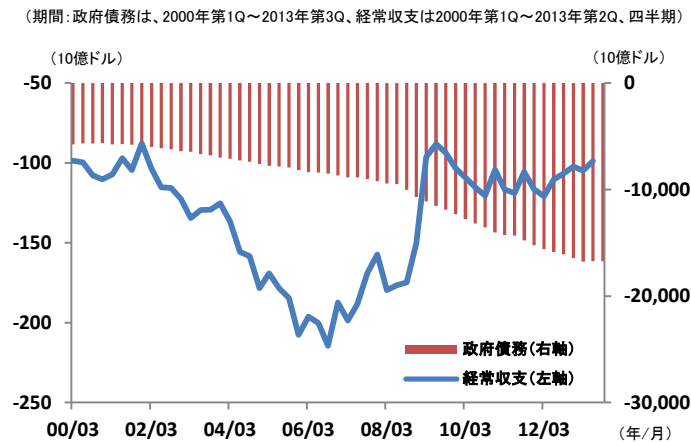


～グローバル・インバランスからみた世界経済～

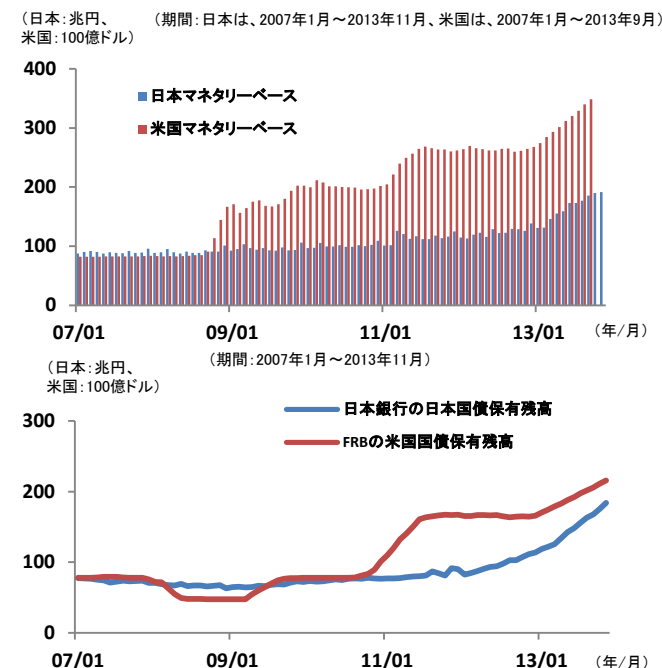
【図表①：世界の経常収支バランスの推移】



【図表②：米国の政府債務、経常収支の推移】



【図表③：日米マネタリーベースと金融当局の国債保有額の推移】

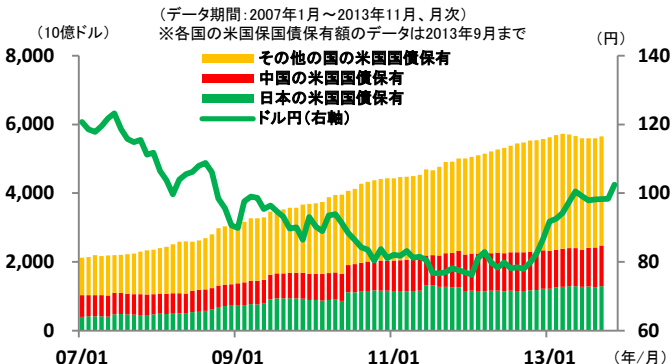


グローバル・インバランスとは、世界的な経常収支不均衡を指します。世界のマネーフローを分析する上で注目される概念です。現在のグローバル・インバランスをみると、世界最大の経済大国、米国の経常赤字を世界各国がファイナンスする形となっています。(図表①) 米国は、双子の赤字といわれるように、財政赤字と経常赤字を抱え、財政赤字を埋めるために米国国債を海外の国々に購入してもらっています。この世界的なマネーフローによる均衡が崩れると市場リスクが増大する(金融危機が発生する)要因になると考えられます。(図表②)

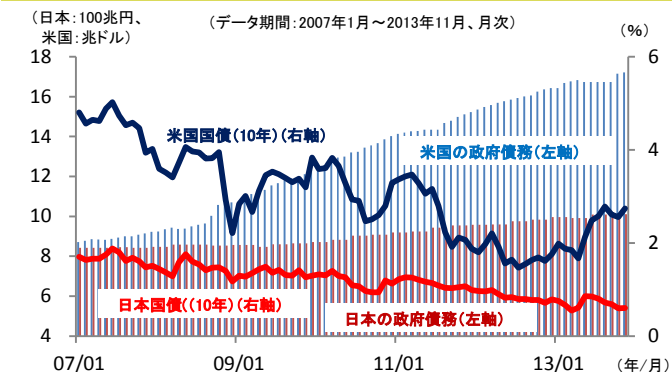
そこで、FRB(米連邦準備制度理事会)は量的緩和(QE)を実施し、マネタリーベースを増やし、マネーフローが滞らないようにするとともに、世界のリスク資産への資金供給にも貢献してきました。また、国内景気、特に住宅市場の回復を促すため、買いオペにより市中から国債を購入し、国債利回り(長期金利)の上昇を抑制してきました。日本銀行も昨年後半から同じような量的緩和を行ない、デフレ脱却に向け、マネー供給を継続しています。(図表③)

現在の世界的なマネーフローによる均衡が崩れると考えられるケースには、米国の政府債務上限問題や量的緩和の縮小開始などにより、長期金利が急上昇し、国や投資家が一齐に米国国債を売却し、米ドル安となる場合があります。現在は、量的緩和をできるだけ先延ばしし、長期金利の急上昇を抑制し、米ドル高政策により米ドルの価値を持続することで、米ドルからの急激なマネー逃避が生じないように緩やかに市場を管理しているように思われます。(図表④、⑤)

【図表④：各国の米国国債保有額とドル円の推移】



【図表⑤：日米政府債務と国債利回りの推移】



(出所：図表①～⑤ブルームバーグのデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成)

当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

＜審査確認番号H25-TB90＞